

2009年10月16日

鹿児島県知事  
伊藤 祐一郎 殿

日本共産党鹿児島県委員会  
委員長 野元 徳英  
日本共産党県議団  
代表 まつざき真琴

### 県内における米軍機の低空飛行問題についての申し入れ

ここ数年、県内各地で、米軍機の低空飛行が目撃されてきました。日本共産党鹿児島県委員会並びに党県議団は、これまで、県内での米軍機の低空飛行問題について、県に問い合わせや申し入れを行うとともに、外務省や防衛省にも直接、要望や抗議を行ってきました。

今回、薩摩半島での低空飛行について調査を進める中で、屋久島空港での米軍機のローアプローチの実態も明らかになり、党県議団は、9月議会における一般質問において、これらの米軍機の低空飛行問題を取り上げ、知事の見解を質し、県としての対策を求めました。しかしながら、これまでは、これらの低空飛行が、航空法違反や在日米軍による低空飛行訓練についての平成11年1月14日の日米合同委員会の合意違反であるという明確な証拠となるものがなく、目撃証言によるしかありませんでした。

今回は、薩摩半島における米軍機の鮮明な飛行写真が撮影され、米軍機はMC130であることが明らかになりました。その写真の提供を受け、党県議団として、測量や低空飛行問題の専門家を招き、米軍機の飛行高度を解明するための測量調査を行った結果、航空法が定める「最低安全高度」以下の低空飛行だった疑いが極めて強いと判明しました。（計算結果については、※資料参照。）

屋久島空港でのローアプローチも含めて、このような米軍の違法、無法行為は、平和憲法を持つ我が国において、断じて許されるものではありません。

米軍機の低空飛行を目撃した県民は、「墜落するかと思った。」「子どもが怖がって泣いて抱きついてくる。」など、危険と隣り合わせの実態に不安と怒りの思いを語っています。

今回の飛行写真の提供者である諏訪勉氏やM氏は、「米軍機の危険な低空飛行をどうしても止めさせたい」という一念で、カメラを構えて待ち続け、撮影されました。

県民の生命・財産を預かる知事として、このような危険な米軍機の低空飛行を止めさせ、県民の安心・安全な生活を守るために、下記の項目について、早急に対処されるよう要望するものであります。

## 記

1. 科学的な測定・調査に基づく、航空法違反の実態について、あらためて外務省に伝え、二度とこのような低空飛行が行われないう、強く要請すること。
2. 在日米軍に対して、今回の調査結果を示し、航空法違反の実態について強く抗議し、二度とこのような低空飛行が行われないう、強く要請すること。
3. 不安を感じている県民に対して、米軍機の低空飛行の実態を明らかにし、県としての今後の対応について明らかにすること。

以 上